令和７年度　地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

ファミリーキャンプ　「とびだす　えほんごはん」

[主　催] 国立阿蘇青少年交流の家

[期　日] 令和７年 12 月６日（土）【日帰り】

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家（第一キャンプ管理棟・キャンプ場周辺・野外調理棟）

[参 加 者] ７家族　計 19 人（大人８人、小学生８人、園児３人）

[後　援] 熊本県教育委員会、阿蘇市教育委員会

[講　師] 吉田　美樹　氏（絵本専門士）※「出張絵本屋モフ books」代表

[スタッフ] 職員４名　法人ボランティア５名

1　趣　旨

（１） 読書活動と自然体験や調理体験を織り交ぜて体験することで、本の世界への没入感を楽しむとともに、子どもの想像力や好奇心を掻き立て、絵本の楽しみ方の選択肢を広げる。

（２） 家族で同じ目的に向かって活動することで、コミュニケーション能力を育む。

2　目　標

（１） 参加者（子ども）の８割以上が、絵本や読書活動に親しみを感じることができる。

（２） 参加者（保護者）の８割以上が、読書活動や体験活動を通して子どもの豊かな想像力を感じることができる。

（３） 参加者（子ども、保護者）の８割以上が、読書活動や体験活動を通じて、家族間での会話を楽しみコミュ二ケーションを育んでいきたいと考える。

3　事業展開

（１） 研修プログラム

12 月 6 日（土）	
9:45	受付
10:00～10:10	開会式
10:10～10:40	絵本の読み聞かせ、手遊び、ミニゲーム （講師:吉田　美樹氏）
10:50～11:45	ネイチャーゲーム、自然の中で宝探し
12:00～13:45	野外調理（パンケーキ・クリームシチューづくり）
13:45～14:30	絵本の読み聞かせ（片付けに関する本）、片付け （講師:吉田　美樹氏）
14:30～15:20	絵本紹介、絵本時間（家族で絵本の読み聞かせ） （講師:吉田　美樹氏）
15:20～15:30	閉会式

（２）活動の様子



【読み聞かせ】



【手遊び】



【ミニゲーム】



【ネイチャーゲーム】



【宝探し】



【野外調理】



【絵本紹介】



【絵本時間】

4　評価、成果と課題

（1） 評価

① 参加者の満足度

※保護者用アンケート（7 家族回答）

質　問	項目	とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない
絵本や読書活動を身近に感じることができたか。	回答数（家族）	6	1	0	0
	割合（%）	85	15	0	0
草原散策や調理を通じて、子どもの豊かな想像力を感じることができたか。	回答数（家族）	6	1	0	0
	割合（%）	85	15	0	0
今後も家族間での会話やコミュニケーションを育んでいきたいと感じたか。	回答数（家族）	6	1	0	0
	割合（%）	85	15	0	0

※子ども用アンケート（口頭・挙手にて質問・回答）

質　問	項目	とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない
今日の事業は楽しかったか。	割合（%）	100	0	0	0
絵本や自然に親しみ、もっと好きになることができたか。	割合（%）	100	0	0	0

② 参加者の声

≪保護者≫

・ 大好きな本を通してアウトドア体験が出来るなんて本当に楽しい一日になりました。
今回は半日でしたが、宿泊付のこういったイベントもあれば楽しそうですね！
また、参加したいです。ありがとうございました。

・ 五感をたくさん使って活動できたのがとても楽しかった。

≪子ども≫

・ いつも本をふつうに読むよりも、意味がわかりながら読めて、こんなふうに読んだら意味がわかるんだなあって思いました。

・ たからさがしと、おりょうりが楽しかった。おいしくつくれてよかった。

（3） 成果

○ アンケートにて、目標であった全体の満足度 8 割以上を達成することができた。また、昨年度開催した絵本事業からのリピーターの参加や次回開催時の参加希望の意見もあり、絵本事業の需要の高さを明らかにすることができた。

○ 講師として絵本専門士を招聘したことで、絵本の読み聞かせや絵本に関するアイスブレイク、おすすめ絵本の紹介等、より質の高いプログラムを参加者に提供することが可能となった。

○ 事前に職員・ボランティアで食材の下準備、火起こしを行ったことで、参加者の年齢（4 歳～小学校低学年）に適した内容の野外調理を行うことができた。

（4） 課題

○ 実施時期が 12 月上旬であったため、参加者から「活動中寒かった」という意見が出た。実施時期を変える、もしくは実施内容を気温に合わせたものになるように検討する必要がある。

○ 日陰で野外調理を実施した家族の焚き火が、うまく適した火力にならず、調理に時間がかかったため、野外調理を行う時間帯と場所を考慮する必要がある。

○ 今回は絵本に興味がある子どもたちを対象に広報したが、今後は絵本に関心が薄い子どもでも絵本に楽しく関わることができるような事業を展開し、読書体験を広く普及していく。